

竹石 奈津子

学校名：横浜市立蒔田中学校 担当教科：英語

### 1. 今回のウガンダ研修における目的やねらい

国際理解教育および開発教育を、中学校の現場で取り入れるためである。帰国後、研修で得た経験をもとに、教育現場において国際理解教育・開発教育に関する授業を実践し、実践結果を他の教諭や学校と共有し広めていくことが目的である。

### 2. 目的やねらいの達成度

実際、上記のための行動してみて、達成することの難しさを痛感した。中学校の現場では「国際理解教育」という言葉は知っていても、「開発教育」では「開発」という言葉からか、授業のカリキュラムに組み込むことがなかなか難しい。

まずは実践の実績をつくっていく事が目標を達成するために必要だと考える。すぐに目標が到達されなくても焦らずに、地道にこの研修を生かし、前向きに取り組んでいくことが大切である。「どのくらい達成されたか」というのは、今後の地道な努力で測ることができるのではないかと思う。

### 3. ウガンダから学んだこと

「誠実さ」と「豊かさ」を持った可能性のある国であることを知った。これが、私がウガンダから学んだことだ。11日間という短い期間であるから、「こうだ」と言うような、断定的な言い方はできない。しかしあらゆる側面があるということを知れば、「誠実さ」と「豊かさ」が挙げられる。ウガンダでは、多くの小学校や中学校を訪問したが、どの小学校も中学校も誠意をもって私たちを歓迎してくれた。生徒は授業に前向きに取り組む、先生の話をよく聞き、ノートもよくとる。肌の色の違う私たちを軽蔑したりもしなかった。

豊かな緑、自然。飢えに苦しみ、暗い顔のひとたちばかりだと想像していた世界とは異なっていた。ブーゲンビリアの木の下でのんびり家族と過ごす様子は、豊かなイメージを私に与えた。これらの美しい点を生かしたまま、この国が幸せになっていってもらえたらと親しみと共に願うようになった。

